



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 38 No. 6
December 2013**

毒理学ニュース

日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース

Contents

日本毒性学会からのお知らせ

第41回日本毒性学会学術年会のご案内(第3報)	81
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ(第1報)	85
第16回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験合格者	86
2014年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領	87
2014年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領	87
第40回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	88

その他のお知らせ

第1回心臓安全性に関するシンクタンクミーティング2014 in 霧島(霧島会議)	89
第5回日本安全性薬理研究会学術年会	90

毒性学ニュース索引(38巻)

J. Toxicol. Sci. 投稿規定

入会案内/変更手続き

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

第41回日本毒性学会学術年会のご案内 (第3報)

1. 会期

平成26年(2014年)7月2日(水)～4日(金)

2. 会場

神戸コンベンションセンター

・神戸国際会議場

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1

TEL: 078-302-5200

・神戸国際展示場

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6-11-1

TEL: 078-302-1020

<http://kobe-cc.jp/index.html>

3. テーマ

「基礎研究から応用研究へのトランスレーション」

4. 年会長

中村 和市 (塩野義製薬株式会社)

5. 企画委員 (敬称略・五十音順)

青木 豊彦 (エーザイ株式会社)

石塚真由美 (北海道大学)

上野 光一 (千葉大学)

漆谷 徹郎 (同志社女子大学)

鍛冶 利幸 (東京理科大学)

菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所)

熊谷 嘉人 (筑波大学)

篠田 和俊 ((独) 医薬品医療機器総合機構)

鈴木 勉 (星薬科大学)

菅井象一郎 (日本たばこ産業株式会社)

高崎 涉 (第一三共株式会社)

遠山 千春 (東京大学)

中西 剛 (岐阜薬科大学)

永沼 章 (東北大学)

西川 秋佳 (国立医薬品食品衛生研究所)

野村 護 (株式会社イナリサーチ)

姫野誠一郎 (徳島文理大学)

福井 英夫 (武田薬品工業株式会社)

堀井 郁夫 (ファイザー, 昭和大学)

横井 毅 (名古屋大学)

吉田 武美 ((公) 薬剤師認定制度認証機構)

6. 特別企画 (予定, 敬称略)

1) 市民公開セミナー

テーマ: 「食, サプリメント, くすり, 環境の安全を考える」

日時: 2014年7月5日(土)

午後1:30～5:00

場所: 神戸国際会議場 メインホール

2) 年会長基調講演

年会長挨拶に際して

3) 特別講演

(1) 高橋和利 (京都大学 iPS 細胞研究所)

(2) Jonathan Katz (NIH/NIDA/IRP)

(3) 片岡一則 (東京大学)

(4) William F. Hickey

(The Geisel School of Medicine at Dartmouth)

(5) Jan Willem van der Laan (EMA/CHMP)

4) 教育講演

(1) 中面哲也 (国立がん研究センター)

(2) 福島昭治 (日本バイオアッセイ研究センター)

(3) Kenneth Hastings (Sanofi Aventis)

(4) Kok-Wah Hew (Takeda Development Center Americas)

(5) Art Levin (Miragen Therapeutics)

(6) 田辺信介 (愛媛大学)

(7) Ivan Rusyn (University of North Carolina)

5) シンポジウム (仮題・順不同)

・急性中毒の予後に影響するバイオマーカーの臨床および基礎毒性学的な考察 (日本中毒学会との合同シンポジウム)

・古くて新しい課題: 重金属研究の新展開

・In vitro 毒性試験としてのiPS細胞利用の有用性と留意点

・ヒトiPS由来分化細胞を用いた医薬品安全性評価の現状と課題

・ワクチンの安全性評価

・毒性オミクス-遺伝子発現ネットワークを標的とした, 治療, 毒性, 及びそれらの評価の新動向-

・医薬品・化学物質開発において毒性病理学が果たす役割 (日本毒性病理学会との合同シンポジウム)

ウム)

- ・化学物質曝露と子どもの脳発達・・・発達神経毒性ガイドラインの現状と課題
- ・実験動物に関する国際的動向
- ・ナノマテリアルによる毒性とその安全性評価
- ・タンパク質と共有結合する化学物質が引き起こす疾患とその制御システム
- ・マイクロ RNA の毒性研究への新しい展開
- ・環境化学物質と脳の毒性 / 発達神経毒性
- ・次世代が切り開く革新的免疫毒性研究 (日本免疫毒性学会との合同シンポジウム)
- ・核酸医薬品の安全性評価
- ・食品中の化学物質による肝肥大の発現機序と毒性学的意義: 現状・課題・展望
- ・発生・発達毒性におけるエピジェネティクス研究の新展開
- ・膀胱・膵臓がんの非臨床及び臨床評価
- ・トキシコゲノミクスの活用例と今後の展開
- ・医薬品開発における Non-CYP 薬物代謝酵素の理解と実践
- ・リプロダクティブヘルスからみた遅発影響 - 生殖発生毒性試験から捉えられない指標 -

6) ミニシンポジウム

- ・耐性の新たなメカニズム: 農薬から抗がん剤まで
- ・次世代が切り開く胎生期, 発達期毒性研究
- ・新たな地球環境の汚染とリスクアセスメント
- ・次世代研究者セミナー

7) ワークショップ

- ・ヒト iPS 由来分化細胞を用いた安全性評価への期待
- ・臨床・非臨床ジョイントディスカッションによるヒト副作用リスク最小化へのチャレンジ: 医薬品の副作用低減化におけるイメージングによる病態解析の実例と可能性
- ・安全性評価を支える薬物動態試験のあり方
- ・医薬品のがん原性評価に対する新たなアプローチ
- ・毒性試験の基礎から応用までの Q&A
 - 複合型毒性試験の実施に関する現場での Q&A -
- ・食品関連化学物質のリスク評価上の問題点と今後の対応
- ・医薬品の生殖発生毒性評価のためのパラダイムシフト
- ・医薬品の催不整脈作用のトランスレーショナル

リサーチ

- ・臨床第 I 相試験を担保する安全域の考え方
- ・眼科的異常を共有するトランスレーショナル手法

8) 就活生の就職支援プログラム

*以上の企画につきましては、変更もあり得ます。年会ホームページ (HP) などで随時ご確認ください。年会 HP アドレスは、本案内の最後に記載しています。

7. 一般講演

- 1) 一般演題 (口演およびポスター) を募集します。主発表者 (プレゼンター) は本学会会員に限ります。現在非会員の方で発表を希望される方は、学会 HP 掲載の入会申込書にて、日本毒性学会事務局へ入会の手続きを行って下さい。日本毒性学会ホームページ: <http://www.jsot.gr.jp/>
- 2) 演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。下記 8 に記載する「演題登録要領」を参照の上、年会 HP から登録して下さい。
演題申込開始日: 2013 年 12 月 20 日 午前 10:00 ~ (予定)
演題申込締切日: 2014 年 2 月 7 日 午後 1:00 (予定)
- 3) 一般演題は口演またはポスター発表とします。口演発表につきましては、発表と討論の時間を合わせて 10~15 分程度を予定しています。詳細は、演題申込数を考慮の上できるだけ早い時期にお知らせいたしますので、ホームページなどで随時ご確認ください。発表方法は液晶プロジェクターのみです。ポスター発表は、毎日貼替えてポスター展示を行い、途中で質疑応答時間を設けます。
- 4) 優秀研究発表賞
2014 年 3 月 31 日時点で 40 歳以下の方を対象として候補者を募集いたします。
応募者は演題申込時にその旨登録して下さい。応募者はポスター発表に加え、別会場で口頭発表と質疑応答を行っていただきます。受賞者の発表は学術年会最終日に行います。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

なお、2015年度は優秀研究発表賞の年齢制限が35歳になる予定です。

8. 演題登録要領

演題登録はインターネットを利用したオンライン登録のみです。締め切り間際はアクセス集中によりサーバ処理能力が極端に低下します。そのため、登録に時間を要する、あるいは登録が完了できないといった事態が生じることが予測されますので、演題募集要項と年会HPを熟読した上で、余裕をもって登録して下さい。

◆登録方法ならびに登録確認・訂正◆

年会HPにアクセスし、演題募集のメニューより案内に従って、次の流れのよう

に登録を進めて下さい。

なお、演題登録は発表者本人が行って下さい。

発表者個人情報登録→共著者・演題情報登録→登録内容確認→登録完了

1) 発表者個人情報登録

発表者は本学会会員に限ります。登録には会員番号(5桁)が必要です。

パスワード(半角英数)は登録内容の確認や変更を行うときに使用します。4文字以上10文字以内で入力して下さい。なおパスワードは「登録内容の変更」により変更することが可能です。入力したパスワードは各自で大切に記録・保管して下さい。

2) 共著者・演題情報登録

2-1) 共著者情報登録

共著者の氏名・所属を入力して下さい。共著者数は最大20名、所属機関名は最大15施設まで登録可能です。

2-2) 演題カテゴリー登録

次の中から発表内容に適したものを選択して下さい。

- 101. 医薬品
- 102. ワクチン
- 103. 農薬
- 104. 金属
- 105. 工業化学物質
- 106. トキシン
- 107. 食品・食品添加物
- 108. 環境化学物質

- 109. 発がん性物質
- 110. 内分泌攪乱化学物質
- 111. 新規物質(ナノマテリアル等)
- 199. その他の物質
- 201. 脳神経
- 202. 肝臓
- 203. 腎臓
- 204. 皮膚
- 205. 感覚器
- 206. 消化器
- 207. 呼吸器
- 208. 循環器
- 209. 生殖器
- 210. 内分泌系
- 299. その他の組織, 系
- 301. 一般毒性
- 302. 生殖毒性
- 303. 遺伝毒性
- 304. 発がん
- 305. 行動毒性
- 306. 免疫毒性
- 307. 中毒(急性毒性)
- 308. 依存性(慢性毒性)
- 309. 細胞毒性
- 310. 発生毒性
- 311. 発達毒性
- 312. 酸化ストレス
- 313. 炎症
- 314. アポトーシス
- 315. エピジェネティクス
- 316. マイクロRNA
- 399. その他の毒性指標(バイオマーカー等)
- 401. 蓄積・排泄
- 402. キネティクス
- 403. 薬物代謝
- 404. 毒性発現機構
- 405. 毒性病理学
- 406. 分子毒性学
- 407. 毒性関連遺伝子
- 408. 安全性評価
- 409. 毒性試験法
- 410. 分析法
- 411. 幹細胞
- 412. モデル動物
- 413. 遺伝子多型

- 414. 高感受性集団
- 415. オミクス
- 416. 疫学・臨床毒性学
- 417. 情報（含リスクコミュニケーション）
- 418. 代替法
- 499. その他の機構, 手法

2 - 3) 演題情報

発表形式を「口演」, 「ポスター」, 「どちらでも可」の中から選択して下さい。優秀研究発表賞に応募する場合は「ポスター」を選択して下さい。

優秀研究発表賞への応募の有無を選択して下さい。

2 - 4) 抄録作成要領

文字数は全角で800文字以内（半角英数字は2文字を1文字に換算）です。本文中に演題名・所属・氏名・図表等を入れな

3) 登録内容確認・訂正

登録の最後に登録情報の確認画面が表示されますので、内容を確認・訂正して下さい。後日改めて確認・訂正を行なう場合は、登録時に入力したパスワードを用いて確認・訂正画面を表示させることができます。

4) 登録完了

登録が完了すると受付番号が表示されます。登録したメールアドレス宛てに演題登録完了メールが送信されますので確認して下さい。翌日まで経過してもメールが届かない場合は事務局までご連絡下さい。

9. 参加登録および参加費

事前参加申込開始日:

2014年1月20日 午前10:00 ~ (予定)

事前参加申込締切日:

2014年4月18日 午後1:00 (予定)

1) 参加費

	事前登録	当日受付
学会員	10,000円	12,000円
非学会員	13,000円	15,000円
学生会員	3,000円	4,000円
* 共催・協賛学会会員	11,000円	13,000円
懇親会 (一般)	8,000円	10,000円
懇親会 (学生)	4,000円	5,000円

* 共催・協賛学会については調整中です。

2013年末までに決定予定ですので、年会HPでご確認下さい。

2) お振込（決済）等の詳細については年会HPにて追ってご案内いたします。

10. 懇親会

次の通り懇親会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。

日時：2014年7月3日（木）午後6:45より（予定）

会場：神戸ポートピアホテル（年会会場隣り）

本館 B1階「偕楽（かいらく）」（予定）

11. 展示・ランチョンセミナー等の募集

ランチョンセミナースポンサー、広告掲載、展示出展を募集します。詳細はホームページ (<http://www.jsot2014.com/contents/company.html>) に掲載しておりますのでご覧下さい。

12. 年会事務局

〒060-0818 札幌市北区北18条西9丁目

北海道大学 大学院獣医学研究科 環境獣医科学

講座 毒性学教室

事務局長：石塚真由美 教授

TEL：011-706-6949 FAX：011-706-5105

E-mail：secretariat@jsot2014.com

13. 第41回日本毒性学会学術年会ホームページ

<http://www.jsot2014.com/>

日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第1報)

本学会教育委員会の各種事業は下記の要領で実施する予定です。詳細は決まり次第、学会ホームページおよび毒性学ニュースでお知らせします。

なお、学会主催講習会は、トキシコロジーに関する知識（基礎知識）を幅広く学習する基礎教育講習会とトキシコロジストとしての知識をアップデート・ブラッシュアップする生涯教育講習会として位置付けすることを基本方針として開催いたします。

「第15回日本毒性学会生涯教育講習会」

本講習会は3コースを一日で学習するフレームで開催いたします。講習内容は、①トピックス（新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する）、②臓器毒性（各種臓器の毒性反応についてメカニズムを含め深く学習する）、③SD育成講座（試験責任者として試験結果の解釈・理解・評価を深める為の知識を学習する）で構成します。また、環境毒性についても、講習内容に加えていきます。詳細なプログラムにつきましては、決定後、学会ホームページおよび毒性学ニュースにてお知らせいたします。

1. 日 時

2014年7月5日（土）

2. 会 場

神戸国際会議場 3階「国際会議室（301）」

3. プログラム（予定）

- 1) トピックス：SOTでのContinuing Education Courseの議題をもとに
- 2) 臓器毒性：眼毒性、聴覚毒性
- 3) SD育成講座：環境毒性、非病理学者のための病理学講義

4. 参加費（1日フルコースとして設定）

事前申込	
会 員	5,000 円（予定）
非会員	7,000 円（予定）
認定トキシコロジスト	3,000 円（予定）
当日申込	
会 員	7,000 円（予定）
非会員	10,000 円（予定）
認定トキシコロジスト	5,000 円（予定）

「第17回日本毒性学会基礎教育講習会」

本講習会はトキシコロジストの系統的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。集中講義によってトキシコロジー全般にわたる理解を深めたいうで、秋季に開催されます第17回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験受験にお役立て下さい。3日間をかけて10名ほどの先生方に講義していただきます。

1. 日 時

2014年8月7日（木）～9日（土）（予定）

2. 会 場

東京大学農学部 1号館（予定）

3. 参加費

- 一般 会 員：25,000 円（予定）
- 学 生 会 員：5,000 円（予定）
- 非 会 員：30,000 円（予定）
- 学生非会員：8,000 円（予定）
- 認定トキシコロジスト：20,000 円（2～3日受講）（予定）
10,000 円（1日受講）（予定）

4. テキスト

「[新版] トキシコロジー」(朝倉書店, 2009年刊)の内容を中心に講義を行います。参加者はあらかじめ書店等で購入することをお勧めします。正誤表は学会ホームページに掲載されています。

「第17回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験」

我が国の安全性試験の信頼性向上とトキシコロジーの進歩に寄与するため、質の高い専門家を認定するための認定試験です。書類審査で受験資格を得た上で受験して下さい。

受験資格の詳細は毒性学ニュース、学会ホームページの『日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定』をご覧ください。

尚、原則として会員歴では2011年以前に入会された方に受験資格がございます。

1. 日 時

2014年10月5日（日）（予定）

2. 会 場

昭和大学 旗の台キャンパス（予定）

3. 受験料

30,000 円（予定）

「認定トキシコロジスト資格の更新」

1999年、2004年、2009年に認定トキシコロジストに認定された方（認定トキシコロジスト No.149～170, 262～303, 416～456）は2014年が資格更新の時期となります。詳細は後日ご連絡いたしますのでご確認ください。

毒性学ニュース、学会ホームページの『日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則』をご覧ください。

第 16 回日本毒性学会認定トキシコロジスト 認定試験合格者

2013年10月6日、昭和大学 旗の台キャンパスで行われた第16回認定トキシコロジスト認定試験の結果を審査したところ、試験問題総数200問の試験において140点以上の得点を獲得し、合格と判定された受験者は次の23名でした。

おめでとうございます。

受験者の総数は72名でした。

赤井 翔	綾 高宏	石村 正和	板垣 圭祐
井上 敦人	梶川 悟	金光 弘幸	河島 知美
黒田 顕	才 貴史	佐草 啓介	鈴木 裕太
谷口 康德	出口 芳樹	西村 陽子	服部 秀樹
一ツ町裕子	平野 拓郎	榭富 直哉	三木 篤子
三好 智也	守田 淳哉	山口 貴嗣	

(五十音順 敬称略)

2013年10月29日

日本毒性学会

理事長

菅野 純

教育委員会委員長

鍛冶 利幸

認定試験小委員会委員長

広瀬 明彦

2014年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領

毒性学に関連する顕著な研究業績をあげ、かつ日本毒性学会の発展充実に大きく貢献した本会会員に日本毒性学会学会賞を授与する。

候補者の資格：現に10年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満65歳以下であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員1名。

表彰：授賞者数は毎年1名とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は2014年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は2014年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Wordファイル）は日本毒性学会ホームページ（http://www.jsot.gr.jp/activity/award_society.html）からダウンロードして使用すること。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2000字以内）
3. 学会賞の対象となる業績目録：原著論文（J. Toxicol. Sci.掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
4. 過去5年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsot@imic.or.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2013年12月31日（火）

2014年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領

毒性学に関する研究において独創的な研究業績をあげつつあり、将来が期待される本会会員に日本毒性学会奨励賞を授与する。

候補者の資格：現に3年以上継続して日本毒性学会の会員であり、授賞年度の4月1日に満40歳以下であるもの。ただし、推薦される研究課題で既に他学会等の賞を受けているものは対象とならない。

推薦者の資格：日本毒性学会評議員1名。

表彰：授賞者数は毎年3名以内とし、賞状および副賞を授与する。授賞式は2014年度の日本毒性学会学術年会の総会終了後に行う。

受賞講演：受賞者は2014年度の日本毒性学会学術年会にて受賞講演を行う。

候補者の推薦：推薦者は、受賞候補者に関する下記事項を所定用紙に記入し、日本毒性学会理事長宛（事務局）に電子メールで提出する。なお、所定用紙（Wordファイル）は日本毒性学会ホームページ（http://www.jsot.gr.jp/activity/award_encourage.html）からダウンロードして使用すること。

1. 推薦書（候補者氏名、略歴、会員歴等を所定の用紙に記入したもの）
2. 推薦理由（2000字以内）
3. 奨励賞の対象となる業績の目録：原著論文（J. Toxicol. Sci.掲載論文に丸印を付ける）、総説・著書
4. 過去3年間に日本毒性学会学術年会で発表した一般講演演題リスト（共同著者となっている演題を含む）

推薦書類の送付先：jsot@imic.or.jp
（日本毒性学会事務局）

推薦締切：2013年12月31日（火）

第40回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について

第40回日本毒性学会学術年会の要旨集を1部3,500円(税・送料込)で販売します。ご希望の方は郵便局に備付けの郵便振替用紙に必要事項をご記入の上、下記口座までお振り込み下さい。ご納入確認後、要旨集を発送致します。

なお、学術年会(第32回以降)の要旨はオンライン(J-STAGE)でも閲覧が可能です(<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/toxp/-char/ja>)。

振込先：口座番号	00150-9-426831
加入者名	日本毒性学会
要旨集価格	3,500円 (1部)

通信欄記入事項：①住所 ②氏名(団体の場合は機関名・部署等) ③電話番号
④第40回学術年会要旨集希望の旨

※通信欄のご記入住所へ送本いたします。詳細なご記入をお願いいたします。

問い合わせ先：日本毒性学会事務局

〒160-0016 東京都新宿区信濃町35 信濃町煉瓦館
(一財)国際医学情報センター内

TEL：03-5361-7075 FAX：03-5361-7091

E-mail：jsot@imic.or.jp

その他のお知らせ

第1回心臓安全性に関するシンクタンク
ミーティング2014 in 霧島 (霧島会議)

実施体制

- 主催 日本安全性薬理研究会
共催 日本臨床薬理学会
後援 独立行政法人医薬品医療機器総合機構・
日本心電学会・日本薬理学会・日本毒性学会
会長 杉山 篤 (東邦大学医学部薬理学講座)
副会長 杉 薫 (東邦大学医療センター大橋病院)
澤田光平 (エーザイ株式会社)
関野祐子 (国立医薬品食品衛生研究所)
深瀬 広幸 (シービーシー治療病院)

プログラム委員

- 阿曾沼慎司 (京都大学 iPS 細胞研究所)
安東賢太郎 (東邦大学)
伊藤真紀 (兵庫医科大学)
菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所)
熊谷雄治 (北里大学病院 東病院臨床試験センター)
樽林陽一 (医薬基盤研究所)
品川 香 (医薬品医療機器総合機構)
永田良一 (新日本科学)
中村和男 (シミックホールディングス)
中村浩己 (武田薬品工業)
中谷晴昭 (千葉大学大学院)
堀井郁夫 (ファイザー, 昭和大学)
松尾純子 (新日本科学, 東邦大学)
山本弘史 (医薬品医療機器総合機構)
吉原伸一 (三菱化学メディエンス)

開催日時・場所

2014年1月11日(土) 13:00 ~ 1月12日(日) 15:00
霧島いわさきホテル (鹿児島県霧島市牧園町高千穂 3958)
メイプルルーム

開催趣旨

新しい心臓安全性評価を提唱するための議論の場として、第1回心臓安全性に関するシンクタンクミーティング2014 in 霧島 (霧島会議) を開催いたします。また、本会議では、PhRMA の Topic Leader として、ICH E14 ガイドライン作成において中心的役割を果たされ、現在、CSRC, Scientific Oversight Committee の Chair としてご活躍されている Philip T. Sager 先生をスペシャルアドバイザーとして招聘し、心臓安全性に関する米国の最新情報をご教示頂く予定です。

プログラム概要

- SESSION 1 Clinical Cardiac Safety Evaluation: ICH E14 and Beyond
 ・ The Thorough QT/QTc Studies - Current Status in Japan -
 ・ The Current Trends and Issues on Integrated Cardiac Safety
 ・ The New Paradigm for Proarrhythmia Assessment Without the TQT Study
 ・ PANEL DISCUSSION
- SESSION 2-1 Future Perspectives on ICH S7B: Key Directions for the New Paradigm
 ・ The Current Status of Non-clinical Cardiac Safety in Japan - Focusing on Non-clinical Proarrhythmia Models -
 ・ Assessment of drug effects on multiple ionic currents in vitro & in vivo
 ・ In silico Predictive Modeling in Cardiology
- SESSION 2-2 Future Perspectives on ICH S7B: Key Directions for the New Paradigm
 - iPS Cell-derived Cardiomyocytes for Cardiac Safety Pharmacology Studies -
 ・ New Approach with Human Induced Pluripotent Stem Cell Derived Cardiomyocytes
 ・ Development of an in vitro Cardiac Safety Testing Using Human iPS Cell-derived Mature Cardiomyocytes
 ・ Differentiation System of Cardiovascular Cells from iPS Cells
- SESSION 3 Future Trends of Cardiac Safety Evaluations - Focusing on ICH Guidelines -
 ・ Future Perspectives on ICH E14 - No Longer Necessary? -
 ・ Future Perspectives on ICH S7B - In vivo, In vitro and In silico -
 ・ Regulatory Science to Accelerate the Development of Innovative Medical Products
 ・ Cardiovascular Safety Pharmacology Studies - Japan's Future Directions -

問合せ先

第1回心臓安全性に関するシンクタンクミーティング
2014 in 霧島

事務局 松本 敏・朝隈 智教 (株式会社 新日本科学)

TEL 03-5565-6185

e-mail: kirishima2014@snbl.co.jp

※本会の詳細につきましては、日本安全性薬理研究会のホームページをご覧ください。http://www.j-sps.org/

第5回日本安全性薬理研究会学術年会

詳細は本会ホームページ <http://j-sps.org/> を参照下さい。

会期 2014年2月14, 15日(金, 土)
会場 東京大学弥生講堂 一条ホールおよびアネックス
セイホクギャラリー
〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1
東京大学農学部内
東京メトロ 東大前駅(南北線) 徒歩1分,
根津駅(千代田線) 徒歩8分

参加申込

- 本会ホームページにてオンラインによる事前登録
- ・参加費：6,000円 (Industry)
3,000円 (Academia, Regulatory, Student)
 - ・申込期間：2013年11月11日(木) ~
2014年1月24日(金)
 - ・問合せ先：学術年会事務局 annual_meeting@j-sps.org

一般演題募集

- ・口演, ポスター発表 (詳細は本会ホームページ参照)
- ・申込期限：2013年12月20日(金)

懇親会

- ・日時：2014年2月14日(金) 18:30 ~ 20:30
 - ・会場：東京大学キャンパス内 山上会館本館
食堂 談話ホール
 - ・参加費：5,000円程度
- 学術年会参加事前登録と同時申込が必要

プログラム

1. 教育講演
 - ・不整脈心電図の読み方
2. シンポジウム
 - ・循環器系に関する新評価法の安全性薬理への応用と展望
 - ・中枢神経系・認知機能
 - ・安全性薬理の統計手法
3. 安全性薬理 Q&A
4. 特別講演
 - ・再生医療
5. 一般演題 (口頭発表, ポスター発表)
6. ランチョンセミナー

毒性学ニュース索引 (38 卷)

毒性学ニュース索引 (38 巻)

日本毒性学会からのお知らせ

第 40 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 4 報)	No. 1	1
第 40 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 5 報)	No. 2	15
第 40 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 6 報)	No. 3	31
第 41 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 1 報)	No. 4	43
第 41 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 2 報)	No. 5	76
第 41 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 3 報)	No. 6	81
第 40 回日本毒性学会学術年会報告	No. 5	74
第 39 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	No. 1	6 / No. 2 18
第 40 回日本毒性学会学術年会要旨集の販売について	No. 4	45 / No. 5 79 / No. 6 88
第 14 回日本毒性学会生涯教育講習会案内	No. 1	4 / No. 2 13 / No. 3 29
第 16 回日本毒性学会基礎教育講習会案内	No. 2	11 / No. 3 27
第 16 回日本毒性学会基礎教育講習会日程	No. 3	28
第 16 回日本毒性学会基礎教育講習会日程 (予定)	No. 2	12
第 16 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験	No. 2	14 / No. 3 21 / No. 4 37
第 16 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験合格者	No. 6	86
第 52 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告①	No. 4	46
第 52 回 Society of Toxicology (SOT) 学術年会派遣報告②	No. 4	47
2013 年度 日本毒性学会評議員会・総会報告	No. 5	53
2014 年度日本毒性学会学会賞候補者推薦要領	No. 4	44 / No. 5 77 / No. 6 87
2014 年度日本毒性学会奨励賞候補者推薦要領	No. 4	44 / No. 5 77 / No. 6 87
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 1 報)	No. 6	85
日本毒性学会教育委員会からのお知らせ (第 2 報)	No. 1	5
日本毒性学会認定トキシコロジスト総会のお知らせ	No. 1	6 / No. 3 30
日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験願書	No. 3	23 / No. 4 39
認定試験受験資格のための評点表	No. 3	25 / No. 4 41
米国毒性学会 (SOT) 教育コースへの派遣者公募	No. 5	78
「学会賞を受賞して」山添 康	No. 5	67
「奨励賞を受賞して」後藤 浩一	No. 5	68
「奨励賞を受賞して」高橋 勉	No. 5	68
「技術賞を受賞して」安保 孝幸	No. 5	69
「技術賞を受賞して」瀧 憲二	No. 5	70
「技術賞を受賞して」尾上 誠良	No. 5	69
「田邊賞を受賞して」熊谷 嘉人	No. 5	71
「田邊賞を受賞して」五十嵐勝秀	No. 5	70
「田邊賞を受賞して」荒川 真悟	No. 5	71
「田邊賞を受賞して」渋谷 淳	No. 5	72
「ファイザー賞を受賞して」熊谷 嘉人	No. 5	73
「ファイザー賞を受賞して」藤井まき子	No. 5	72
「ファイザー賞を受賞して」武田 健	No. 5	73

その他のお知らせ

Practical Application of Toxicology in Drug Development	No. 4	48
The X III International Congress of Toxicology (ICT) Seoul 2013	No. 1	10 / No. 2 20 / No. 3 34
ナノバイオフィースト国際シンポジウム ナノバイオで実現する医療イノベーション ～ニーズを研究へ、そして社会へ～	No. 1	8
フォーラム 2013：衛生薬学・環境トキシコロジー	No. 3	34 / No. 4 49
第 1 回心臓安全性に関するシンクタンクミーティング 2014 in 霧島 (霧島会議)	No. 6	89
第 5 回日本安全性薬理研究会学術年会	No. 6	90
第 6 回国際ナノテクノロジー労働環境衛生シンポジウム	No. 3	34 / No. 4 49 / No. 5 80
第 20 回 HAB 研究機構学術年会	No. 2	19
第 20 回 HAB 研究機構学術年会 創薬とライフィノベーション創出に必要な産学官連携の在り方	No. 1	9
第 20 回記念シンポジウム「モレキュラー・キラリティー 2013」	No. 1	8 / No. 2 19
第 25 回生殖・発生毒性学東京セミナー案内	No. 5	80
知の市場公開講座	No. 4	48
日本安全性薬理研究会 第 4 回学術年会	No. 1	7
日本環境変異原学会第 42 回大会 (岡山)	No. 4	50

求人広告

MSD 株式会社	No. 4	51
中外製薬株式会社	No. 4	52

J. Toxicol. Sci. 投稿規程

The Journal of Toxicological Sciences (略称: J. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質をはじめ様々な物質の毒性とその発現機構, 生体応答, 安全性評価, 分析法など毒性学全般にわたる研究成果を掲載する学術雑誌である。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。なお, 投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article: 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。文字数の制限はない。
- (2) Letter: 原則として刷り上がり3頁以内。公表する価値は十分あるもののOriginal Articleとしてはデータの的に不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象, ネガティブデータだが学術的重要性が高いと思われる知見などを掲載する。
- (3) Toxicomics Report: 刷り上がり3頁以内。毒性や生体応答に関わる遺伝子および蛋白質に関する独創的な知見を掲載する。対象となる物質によって発現量が変動する遺伝子群(または蛋白質群)に関するデータ(DNAアレイ分析の結果など)や毒性発現に影響を与える遺伝子(または蛋白質)の同定などが該当する。DNAアレイ分析結果などは1つの物質について1論文, 毒性発現に関わる遺伝子の同定は1つの遺伝子について1論文とすることができる。また, 毒性に関わる遺伝子の新たな多型の発見や, 既存の遺伝子多型と薬効等との関連性を検討した結果(ネガティブデータでも可)なども掲載対象とする。本論文種は情報提供を目的としたものなので, 考察や意義付けが十分にされていなくても良い。
- (4) Review 及び Minireview: 編集委員会が執筆を依頼する。興味深い最新の知見を一般的に紹介する総説をReviewとし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説をMinireviewとする。Reviewは頁数に制限を設けませんが, Minireviewは刷り上がり3頁以内とする。
- (5) Special Issue: 一冊買い上げの形で研究成果等を本誌のSpecial Issueとして発行することができる(原則として50ページ以上)。詳細については電子メールで編集部にお問い合わせのこと。

2. 原稿の構成

A4判に上下左右に2cmの余白を取り, 11ポイントの活字でシングルスペースで記述する。刷り上がりページ数が定められている論文種の場合は, 刷り上がり1頁の文字数がスペースを含めて約4,700字となることを考慮して原稿を作成する。表題頁を1頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第1頁(表題ページ)に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title(スペースを含めて70文字以内), カテゴリー(下記3参照)を記す。次いで日本語

で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mailアドレス(必須)を記載し, さらに, 英文チェックを受けたネイティブスピーカーの氏名(または会社名)及び住所を記入する。

- (2) 第2頁に250語以下のアブストラクト及び3~6語のキーワードを記す。アブストラクトは改行しない。
- (3) 第3頁以後にIntroduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, Referencesの順番で本文を記述する。ResultsとDiscussionをまとめてResults and Discussionとして記述してもよい。
- (4) 略語: 初出時に一旦スベルアウトし, その直後に略語を()内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。µm, mm, cm, m, Å, µg, mg, g, kg, µl, ml, l, mmol, mol, µM, mM, M, ppm, mol/l, mg/ml, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, °C.
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市(州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いてA4判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける(例, Table 1.)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は1つずつA4判1ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける(例, Fig. 1.)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめてLegendsとして記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を()内に記す[例, (Smith, 1999)または(Jones and Cohen, 2003)]。著者が3名以上の場合には筆頭著者のみを表示する[例, (Smith et al., 2004)]。引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾にReferencesとして一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外はChemical Abstractに準ずる。

(例)

Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005): The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.

Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003): The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.

(10) Supplemental Data：一部のデータ（Methodの詳細、追加データ、DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など）をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。Supplemental Dataはオンライン版にのみ掲載される。

3. カテゴリー

第1頁（表題ページ）に下記の中から該当するカテゴリー（5つ以内）を選んで、関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 薬物中毒 C8 薬物依存性 C9 細胞毒性 C10 酸化ストレス C11 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 発達毒性 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 オミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」（1964年発行、2002年改訂：<http://www.wma.net/e/policy/b3.htm>）の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」（http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/seimei/genomeshishin/）に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした

論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 投稿原稿の送付

原稿はオンライン投稿システム（<https://www.e-kenkyu.com/jtoxicol-sci/>）から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿はMicrosoft WordファイルまたはPDFファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

7. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Wordで作成した最終原稿（本文および表）ファイルと図のファイルを提出する必要がある。
- (2) 著者校正を1回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。

8. Executive Editors

若干名のExecutive Editorをおく。Executive Editorの選考は編集委員会に設けられたExecutive Editor小委員会が行う。Executive Editorが責任著者になっている論文またはExecutive Editorが推薦する論文は編集委員会の審査を受けることなく採用する。Executive Editorはこれらの論文を編集部に送付する前に、自身と所属の異なる2名の専門家に査読を依頼しなければならない。掲載論文にはその論文を投稿または推薦したExecutive Editorの氏名が記載される。

9. 掲載料

掲載料は以下の表を参照のこと（消費税別）。別刷は別途申し受ける（有料：実費）。請求書は発行後に責任著者宛に送付する。

	掲載料（円／頁）	カラー写真 ^c （円／頁）
Original Article	6,000	40,000
Letter	12,000 ^a	40,000
Report ^b	16,000	40,000
Special Issue	20,000	40,000
招待総説	無料	20,000

^a：4頁目からは16,000円／頁。 ^b：Toxicomics Report。 ^c：図等も含む。

入 会 案 内

1. 「日本毒性学会会則」を熟読の上、本会ホームページの「入会案内」(<http://www.jsot.gr.jp/about/admission.html>)より入会申請フォームでお申し込み下さい。
入会にあたり、本学会評議員1名の推薦が必要となります。学生会員として入会を希望される方は、評議員の推薦に加え、所定欄に所属研究室指導教員1名の推薦が必要です。評議員については「評議員リスト」(https://toxicol.org/users/councilor_list)をご覧ください。評議員のe-mailアドレスは評議員の先生に直接お尋ね下さい。
2. 入会受付後、事務局より年会費の郵便振替用紙をご送付いたします。
3. 年会費の納入が確認された時点で入会が完了し、会員として登録されます。
4. 本会の年度は1月1日から12月31日です。
5. 機関誌「The Journal of Toxicological Sciences」はご指定の住所宛にご送付いたします。尚、年度の途中から入会された場合、希望者には入会年の機関紙 No.1 からご送付いたしますので、入会申請フォームのバックナンバー欄に希望の有無のチェックを入れて下さい。
6. 年会費および会員の種別は次の通りです。
一般会員 7,000円
学生会員 3,000円
*本年度入会希望の方は、12月20日までに年会費のお振込みをお願いします。それ以降にお振込みいただいた場合は、次年度入会となりますのでご了承下さい。

変 更 手 続 き

ご登録内容の変更は、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://toxicol.org/>)へログインし、「会員情報確認・変更メニュー」の「登録情報確認・変更ページへ」から手続きを行って下さい。

退会手続きは、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://toxicol.org/>)へログインし、「会員情報確認・変更メニュー」の「退会申請ページへ」より手続きを行って下さい。

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規程

平成 9 年 7 月 24 日制定 平成 21 年 7 月 5 日改正
平成 15 年 7 月 19 日改正 平成 23 年 1 月 14 日改正
平成 19 年 1 月 16 日改正 平成 24 年 1 月 1 日改正

1. 目的

日本毒性学会（JSOT）は化学物質の毒性試験に関する基準（GLP）の施行に伴う安全性試験の信頼性確保の重要性に鑑みて、わが国の安全性試験の信頼性向上と毒性学の進歩に寄与するため、JSOT 認定トキシコロジストの認定制度を設けて、質の高い専門家を認定する。

2. 認定試験小委員会

認定試験を実施するため、JSOT 教育委員会の下に認定試験小委員会（以下試験委員会という）を設置する。試験委員会に関する細則は別に定める。

3. 認定試験

- JSOT 認定トキシコロジストとして認定を受けようとする者は、JSOT が行う書類審査ならびに認定試験に合格しなければならない。
- 書類審査および認定試験は試験委員会が行い、認定は理事会が行う。
- 書類審査の基準は次の通りとする。
 - 出願時に3年以上継続してJSOTの会員であること。
 - 出願時に6年制大学卒業後5年以上、4年制大学卒業後7年以上、短期大学卒業後10年以上、高等学校卒業後12年以上、およびそれ以外の者ではこれに準ずる年数の毒性学領域における実績を有する者であること。毒性学領域における実績期間には、毒性学関連の職歴および大学院等における毒性学関連の研究期間を含めるものとする。ただし、修学期間、就業期間および研究実績期間の重複は多重に計上しない。その他、大学等への入学前の実績期間や複数の大学等での修学の取り扱い等については事務局に事前に問い合わせること。

- 別表の受験資格評点基準に従って総合点が80点以上に達していること。
 - 上記のうち、基準に満たない要件があるものについても、理事長が特に認めた場合、受験資格を与える場合がある。
- 認定試験は原則として年1回実施し、筆記試験とする。
 - 受験料は3万円とする。
 - 資格審査および試験実施細目については別に定める。

4. 認定

- 合格者は認定を受けるために認定料を支払わなければならない。認定料は2万円とする。
- JSOT 認定トキシコロジストに適格でない事由が生じた場合、認定を取り消すことがある。

5. 認定資格更新

認定資格取得後5年毎に資格更新を行う。資格更新に関する細則は別に定める。

6. その他

この規程の改定は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則 平成 24 年 1 月 1 日改定の本規程は同日から施行する。

(付) 日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジスト受験資格のための評点基準

種別	評点項目	参加	発表 ¹⁾
論文	毒性学関連論文 ²⁾		10 (5) / 編
学会活動	JSOT 学会 JSOT 認定学会 ³⁾ JSOT 認定講習会 ⁴⁾	10 / 回 5 / 回 5 / 回	10 (5) / 回
JSOT 主催講習会	基礎教育講習会 (1998 年以降) ⁵⁾ 生涯教育講習会	40 / 回 5 / 回	

- 発表におけるかっこ内数字は筆頭者でない共同発表の点数を示す。
- レフリー制度が整っている学術誌に限る。
- IUTOX, ASIATOX, SOT, EUROTOX, JSOT 共催学会, JSOT 協賛（後援は除く）学会
- 日本学術会議トキシコロジー分科会シンポジウム, 応用トキシコロジーリカレント講座等
- 1997 年以前の参加は 10 / 回

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

平成 12 年 6 月 29 日制定
 平成 15 年 7 月 19 日改正
 平成 19 年 1 月 16 日改正
 平成 21 年 7 月 5 日改正
 平成 23 年 1 月 14 日改正
 平成 24 年 1 月 1 日改正
 平成 24 年 7 月 5 日改正
 平成 24 年 12 月 12 日改正

- 本細則は日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジストの認定制度規程に基づき制定されたものである。
- 認定資格の継続を希望する者は、理事長宛に資格更新の申請を行うものとする。
- 資格更新者は下記の基準を満たす者とする。
 - 資格更新申請時にも JSOT 会員であること。
 - 資格更新申請時において、過去 5 年間に別に定める評点基準に従って総合点が 80 点以上であること。
 - 資格更新申請時において、以下の評点基準のカテゴリー II に定める学会に、過去 5 年間に 1 回以上参加してはならない。但し、65 歳以上の場合、あるいは特別な事情により理事長が認めた場合に限り本基準は免除される。（本基準項目は、平成 26 年の更新該当者から適用する。）
 - 資格更新時に実施する資格更新試験に合格すること。ただし、本試験は過去 5 年間に出题された認定試験問題の中から認定試験小委員会で選出した問題を申請者に送付し、一定期間後に回収することで実施する。80% 以上の正答を以て合格とする。なお、この基準に満たなかった者においては一回を限度に再試験を行い、その結果正答率が 80% 以上に達した場合には合格とする。
- 理事長は資格更新申請を受け、教育委員会委員長を経て認定試験小委員会に審査を委嘱する。
- 認定試験小委員会は資格更新申請者からの申請が上記 3. の基準を満たしているか否かを審査し、その結果を、教育委員会委員長を経て理事長に答申する。
- 理事長は答申案を理事会に諮り、資格更新者を決定し、申請者に通知する。
- 申請者は通知日より 2 ヶ月以内に更新料（当分の間 2 万円）を学会に納入する。
- 理事長は更新料が納入されたことを確認し、認定書を交付する。
- 資格更新時に止むを得ざる理由により手続きが出来なかった者の取り扱いについては理事長が判断する。
- 65 歳*時点で認定トキシコロジストとして有資格者であり、且つ 15 年以上の認定資格歴のある者は、「名誉トキシコロジスト」としての表彰を受けることができる**。
- 細則の改定は認定試験小委員会の議を経て、理事会の承認を得る必要がある。

付則：平成 24 年 12 月 12 日改定の本規程は同日から施行する。

*：更新年の 12 月 31 日に 65 歳である者

**：本表彰は 66 歳以降における認定資格の更新に関わらず、本条項該当者の申請に基づき行われるが、表彰のための費用は徴収しない。

評 点 基 準

カテゴリー	評 点 項 目	評 点	上限 (5 年間)
I	認定試験の問題作成	20 / 回	80
II	学会活動 JSOT 参加 / 発表 JSOT 認定学会 ¹⁾ 参加 / 発表	5 / 回	25
III	JSOT 公認講習会 ²⁾ (講師を含む)	5 / 回	25
IV	毒性学関連論文 ³⁾	5 / 編	25

¹⁾ IUTOX, ASIATOX, SOT, EUROTOX, JSOT 共催学会, JSOT 協賛 (後援は除く) 学会

²⁾ JSOT 基礎教育講習会・生涯教育講習会, 日本学会議トキシコロジー分科会シンポジウム, 応用トキシコロジーリカレント講座等

³⁾ レフリー制度が整っている学術誌に限る

2013年12月1日 印刷

2013年12月1日 発行

発行人 菅野 純

編集人 永沼 章

発行所 日本毒性学会

編集部 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
東北大学大学院薬学研究所生体防御薬学分野内
TEL (022) 795-6870 FAX (022) 795-6869
E-mail : jts-ed@jtoxsci.org

学会事務局 〒160-0016 東京都新宿区信濃町35 信濃町煉瓦館
一般財団法人 国際医学情報センター内
日本毒性学会事務局
TEL (03) 5361-7075 FAX (03) 5361-7091
E-mail : jsot@imic.or.jp

振替 00150-9-426831

ホームページ <http://www.jsot.gr.jp>

印刷所 株式会社仙台共同印刷

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2
TEL (022) 236-7161